

<株式会社エフエム東京 第 457 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 31 年 4 月 2 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（3 名）

横 森 美 奈 子 委員長 渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員

◇欠席委員（3 名）

秋 元 康 委員 ロバート キャンベル 委員
川 上 未 映 子 委員

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
西 川 常勤監査役
村 上 常務取締役営業局長
森 田 執行役員編成制作局長 兼 編成部長
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー
若 杉 編成制作局制作部長
増 山 番組プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 26 分）
『HANABI』 2019 年 3 月 11 日（月）19:00～19:55

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2019 年 2 月度 聴取率調査結果について

2019 年 2 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。（調査対象期間：2019 年 2 月 4 日～2 月 10 日）

当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）の全日平均において、今回は前回よりスコアを上げたものの、20 代男性を中心に M1 がスコアを下げ、週末においては M1F1 共にスコアが低迷したことにより、TBS ラジオに次ぐ在京第 2 位となりました。F1、20 代女性においてはスコアを回復、在京首位を獲得し、改めて若い女性層に支持される当社の特色が出た結果となりました。

なお、リーチ（到達率）では、12-59 歳区分で今回は在京同率トップに戻すことができ、12-59 歳区分の聴取率も 1 ポイント上昇。競合局である TBS ラジオ、J-WAVE と 0.1 ポイント差に迫る結果となりました。

4 月改編では、これまで M1F1 層の獲得に苦戦してきた平日朝 6:00-9:00 と平日夜 20:00-21:30 を改編し、当社の特色である若い女性層とのエンゲージメントをより強化するとともに、週末においては、箱番組が多数存在する中で、コンセプトを明確化したゾーニングを行うことにより、ストレスなく継続聴取できる編成を目指してまいります。

■4 月番組改編について

TOKYO FM では、「感動を提供し、共感を得る」というステーション理念のもと、春の番組改編を 4 月 1 日(月)より行いました。首都圏のライフスタイル、デジタルとアナログの価値観、メディアへの接し方が多様化する中、TOKYO FM は、昨年度より引き続き、“Life WIZ RADIO” をテーマに掲げ、リスナーの Life＝「生活」、「人生」、「命」にいつも寄り添っていくラジオステーションを目指します。今回の春改編では、平日朝帯・夜帯に新たなワイド番組を新編成し、リスナーの 1 日のライフタイムを彩り、側で支える番組作りを通し、より一層「共感コミュニティ」づくりを強固にしていまいります。

4 月改編主な新番組・リニューアル

●『ONE MORNING』 <新番組>

月曜～金曜 午前 6:00～9:00 *JFN 全国 38 局ネット 一部東京ローカル
出演：鈴木健一、ハードキャッスル エリザベス

新番組「ONE MORNING」を昨日、4月1日（月）よりスタートいたしました。朝のワイド番組の改編は、2008年4月の「クロノス」立ち上げ以来、11年ぶりとなります。メインパーソナリティをつとめるのは、声優、アーティストとして、また、自身の所属事務所の社長としても活躍する鈴木健一。鈴木氏はアニメ作品の声優、アニメソングのアーティストとして、若い女性層を中心に人気を集め、また、経営者としてはビジネスマンと等身大の視点も持つ人物です。アシスタントをつとめるのは、ハードキャスル エリザベス。イギリス人の父と日本人の母をもち英語も堪能で、朝帯にぴったりの爽やかな声を持つTV局アナウンサーとしてニュースからバラエティまで幅広い経験を備えた人材です。3月末にTV局を退社し、フリーアナウンサーとしての活動を開始する第1弾となります。

タイトルの「ONE MORNING」は、生き方の多様化を背景にしながらも、色々な価値観をお互いに認め合いながら、新しい価値観を紡ぎ、繋がっていく朝のONE WORLDを作るという意図を込めています。人間の心と身体にしっかりと届く声をもつ声のプロフェッショナルと共に、それぞれの朝に、新しい価値観を提案することを目指してまいります。



1
ONE
MORNING



▲鈴木健一／ハードキャスル エリザベス

●『ホメラニアン』 ＜新番組＞

月曜～木曜 20:00～21:30 東京ローカル

出演：犬山紙子（月・火）、関口舞（水・木）

日本では、単身世帯が年々増加しており、人口推計においても、2035年には、15歳以上の全人口に占める独身者（未婚＋離別死別者）の割合が48%を占めると言われます。実際のライフスタイルを見ても、平成初期生まれのミレニアル世代は、その上の世代に比べて結婚願望が薄く、結婚してもパートナーに依存せず、お互い自立した関係を築こうとする傾向があります。

こうした、これまでにない「独身ソロ化社会」の到来を見据えて、平日夜に、働く 20～30 代の女性をメインターゲットにした新ワイド番組「ホメラニアン」を立ち上げました。仕事に、恋愛に、勉強に、家事に、育児に、人付き合いに、様々な不安を抱えながらも日々頑張っている女性たちを全面的に肯定し、どんな些細なことでもホメていくことをコンセプトに、一人の時間に朗らかに寄り添っていくことを目指します。

パーソナリティは、コラムニストとして「負け美女」など女性の本音を綴ったエッセイが人気で、TV、ラジオ、雑誌等で活躍中の犬山紙子と、会社員からフリーランスを経て 23 歳で IT 企業家となり、2015 年にリリースしたInstagram サービスは、オバマ大統領夫人やトランプ大統領をはじめ、世界で 1,500 万人が利用し、2017 年にリリースした性格診断「エムグラム診断」は 1 か月で 400 万人が利用、現在はキャリア支援事業をスタートするなど、女性を応援する才女である関口舞が担当。柔らかい声質で女性のみならず男性リスナーも惹きつけていきます。

ホメラニアン



▲犬山紙子



▲関口舞

●『TOKYO SPORTS GOOD』 <新番組>

金曜 13:00～13:55 東京ローカル

TOKYO FM | GINZA SONY PARK STUDIO から公開生放送

出演：中西哲生、小川麻希

2019 年のラグビーW 杯、2020 年の東京五輪と国際的なスポーツイベントを控えた東京の中心地、銀座ソニーパークより、公開生放送で、新しいスポーツ番組をお届けします。注目競技の解説やアスリートへのインタビューのほか、

オリンピック／パラリンピックに向けて変わりゆく東京の取り組み、また、週末のスポーツ情報など幅広くお伝えします。「クロノス」で10年間にわたり、TOKYO FMの朝の顔を務めたスポーツジャーナリストの中西哲生がパーソナリティをつとめ、アシスタントは元・埼玉西武ライオンズ公式チアパーformerという経歴を持つフリーアナウンサーの小川麻希が担当いたします。



▲中西哲生



▲小川麻希

●『日本郵便 SUNDAY'S POST』 <新番組>

日曜 15:00～15:50 *JFN 全国 38 局ネット

出演：小山薫堂、宇賀なつみ

人と人の心をつなぐ「手紙」をテーマに、「手紙で想いを伝える」という手紙文化の啓発を目的とした番組です。

日曜日の午後、ここだけにオープンしている郵便局からふと届く、思いもよらない誰かからの手紙…。本編ではゲストトークやロケで、人・場所・コト・モノなどにまつわる様々な「想い」を届けながら、全国の主要郵便局に番組専用ポストを設置しメッセージを受け付けていきます。パーソナリティをつとめるのはクリエイティブディレクターの小山薫堂、そして、TV朝日を退社し4月からフリーアナウンサーとなった宇賀なつみをアシスタントに迎えます。



▲小山薫堂



▲宇賀なつみ

● 『SCHOOL OF LOCK! UNIVERSITY』 <新番組>

金曜 23:00~23:55 *JFN 全国 38 局ネット

出演：マンボウやしろ教授

放送 15 年目を迎える 10 代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』では、教科書に載っていない問題・疑問に立ち向かう、卒業生のための新しいもう 1 つの学校、『SCHOOL OF LOCK! UNIVERSITY』を開校します。やしろ教頭として『SCHOOL OF LOCK!』初期を支え、現在は『Skyrocket Company』の本部長でお馴染みの、マンボウやしろを教授に迎え、大学生をはじめとする若者をターゲットに、新たな学校コミュニティを形成します。

現在『SCHOOL OF LOCK!』で放送中の“音学（音を学ぶと書いておんがく）”の講師サカナクション・山口一郎がお送りする『サカナ LOCKS!』もこの番組内に時間を移動、より文化的なプログラムとして番組を彩っていきます。



▲マンボウやしろ教授

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○『日本郵便 SUNDAY' S POST』はとても良い企画だと思う。私も日ごろ、手紙を書くように心がけているが、届いた相手が、「わざわざ手紙を送ってくださって」と大変喜んでくれる。手紙でのお返事をくれる方もいる。デパートなどで話を聞くと、便箋は若い方を中心に売れているという。デジタルに推移している世の中で、若い人たちはデジタルとアナログのバイリンガルになっているのではないか。アナログが古いのではなく、新しい感覚で取り入れている若い人が誕生しているのだと思う。この番組も同じように一見古風に感じるが、実は今の時代に新鮮な取り組みとなっている。

○聴取率が第 2 位と聴いたが、2 位は気分が良いものではない。首位は TBS ラジオだったとのことだが、何か編成上に問題があったのか。

■TBS ラジオがこの 1 年間で急速に台頭してきた。女性は弊社の数字の方が高いが TBS は若者含む男性からの支持を、過去最高に得ている。これまで TBS の編成は、年齢層が高めだったが、ここ 1 年ほどで急激な代替わりをした。野球のナイター中継を終了したり、長寿番組を終了させて若者番組を編成したり。その結果が想定よりも早く出てきている。

○今まで、首位を競うのは J-WAVE だったが、ターゲット層での TBS との首位争いは初めて聞いた。他の業界でも、例えば、ファッションなら最近ユニクロのライバルがワークマンという記事が出ているように、思わぬようなところからライバルが出現することがあるが、そういう時代なのかもしれない。

■AM 局は難聴解消のため、補完中継により FM 化している。AM の電波創出の設備更新の時期でもあることから、FM にシフトする動きも見られ、その先陣を切っているのが TBS となっている。

○新番組のタイトルにはもう少し日本語を使用して欲しいと感じた。

○「ホメラニアン」は番組の切り口がユニークで聞いてみたいと思った。2035 年の独身率などとても興味深い数字。最近のニュースで中高年の引きこもりというのを見た。また、仕事のできる独身女性に本当に良くお会いする。ひとりに寄り添うというのは時代に合っていると思う。

○「独身ソロ化社会」という言葉があるのか？

■こちらで作った造語である。

■番組をはじめるにあたり、コンサルタントなどにもいろいろ話を聞いたが、20 代の男女がなかなか恋愛をしない、晩婚が進んでいる、とりわけ東京 23 区にはひとりで過ごす人が増加しているという。そういう人たちに向けて、全肯定していく番組を作りたいというところから始まった。また、最近では企業内でも「ほめる」ことが減ってきているようで、「ほめるアプリ」が大ヒットし、導入した企業では社員のモチベーションアップにもつながっていると聞いている。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『HANABI』

【放送日時】 2019年3月11日（月） 19:00～19:55

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、TOKYO FM 特別番組 『HANABI』のダイジェストです。この番組は、TOKYO FM をはじめとする JFN38 局で、東日本大震災以降、被災された方々と全国のリスナーの心をつなぎ、被災地の声を届ける復興支援番組『LOVE&HOPE』の制作チームによるドキュメンタリーとして、東日本大震災から8年となる2019年3月11日にお届けしました。番組では、『LOVE&HOPE』が継続的に取材を続けてきた南相馬市原町区在住の上野敬幸さんの8年とボランティア団体「福興浜団」の活動を取り上げました。ナビゲーターは、福興浜団が主催する花火大会でライブを行ってきた ASIAN KUNG-FU GENERATION の後藤正文氏。

上野敬幸さんは、東日本大震災による津波で、ご両親と、幼い二人のお子さんを亡くしました。お母さんと当時8歳だった長女の遺体は見つかりましたが、お父さんと当時3歳だった長男は、いまも行方がわからないままです。震災当日、上野さんは消防団の一員として、津波被害にあった地域の人たちを救出していました。「真っ先に子どもたちのところに駆けつけていたら・・・」。上野さんはそのことをいまも悔やみ続けています。震災の年に生まれた次女はもうすぐ、津波で亡くなった長女の年齢を追い越します。亡くした子どもたちの面影と、すくすくと成長する次女の姿に揺れる上野さん。

ASIAN KUNG-FU GENERATION の後藤氏は、東日本大震災の直後から被災地に足を運ぶ一方、新聞『THE FUTURE TIMES』では自ら編集長を務め、震災後の価値観とライフスタイルについて発信を続けてきました。「THE FUTURE TIMES」の取材で、後藤氏が上野さんと出会ったのは2012年。以来二人は交流を重ね、「福興浜団」による「追悼福興花火」では、2013年以来毎年、後藤氏がライブを行ってきました。「悲しい思い出が残る浜を子どもたちの笑顔や笑い声でいっぱいになりたい」。そんな上野さんの想いに共鳴し、後藤氏トラックの荷台を改造した手作りのステージで歌い続けています。

番組ではそんな二人が、初めて膝と膝を突き合わせて「命のこと」「家族のこと」「未来のこと」を語り合いました。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○私も被災地の取材をしたが、「HANABI」はとても素晴らしい番組だと思った。上野さんと後藤さん、どちらの語りもよく、とても真摯なのが伝わって来た。特に後藤さんは聞き手として一級、聞き上手だと思った。後藤さんがこれまで本気で積み上げてきた年月と、聞き取り方のうまさ、上野さんからお話を引き出すことに繋がったのかと感じた。

○東北に行くことがあるが、8年も経つと、熱に突き動かされるようなパッションはなくなる。震災直後は、何か自分にできることはないか、動けないならせめて寄付をと、ものすごく一生懸命人が動いた。今はそれが変化してきて、絆とか頑張ろうとか、そういった言葉があまり聞かれなくなった。ボランティアも当時に比べたら減っている。しかしそれは風化されたのとは違うことだと思う。違う形で若者たちの間にも残っている。そういうものを感じた番組だった。

○報道や番組での震災の扱い方は難しい。また、被災地の体験に学ぶという教訓の活かし方も実際は難しい。この番組はそれを地道にずっと続けてきた人たちの話。とても良くできていると思った。

○タイトルからはもっと明るい話かと思ったがギャップがあった。

○BGM はないほうが良かった。

○2人の会話だけで成立しているようなシンプルな作りであえて、後藤さんと上野さんの経験値からくる説得力を活かそうとした構成だと感じる。余計な演出が削ぎ落とされた分、伝わるものがあった。

○震災から8年、風化ではなく、時間を経た今だからこそ語れることがある。この番組では、表面的じゃない部分で、これから開けていくんだという内面を聴けた気がした。

○震災を知らずに生まれてきた無垢な子どもの声が入っていて、それが未来を感じさせ、とても良かった。

■後藤さんと初めて打ち合わせをした時に、最初は番組出演を断られた。感動ポルノは絶対に作ってはいけないと。しかし会話をしていくうちに、「番組が『希望』を伝え、上野さんの想い、上野さんが今伝えたいことをちゃんと伝え

ることができるなら、そのお手伝いは引き受けたい」とスタートした企画だった。最後に、後藤さんが、寄り添うことは難しく、「大丈夫ですか？」なんてとても言えない。ただ、花火があるから、ライブがあるから傍らに立つ理由がある、と仰っていたのが印象的だった。

○番組からはそのことがとても伝わって来た。

■後藤正文さんは震災後、「FUTURE TIMES」というフリーペーパーを発刊している。普通のバンドマンにはなかなかできない、特異な存在である。

■弊社の LOVE&HOPE という番組は、8年前から平日に毎日、1日も欠かさずことなく、放送を続けている。その関係者から制作となり、伝えることのできた番組でもある。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「Ready Saturday Go」

4月27日(土) 7:00~7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、5月7日(火)に開催することを決めた。